

クセになる。八尾の人、まち、自然、うまいもん

Yaomania

【ヤオマニア】Vol.2 2014年・夏号

中島岳志さんと古代史を体感。

高安古墳群 “千塚”をめぐる。

あの人が八尾に帰ってきました
今東光資料館オープン!

八尾の夏、枝豆の夏

ヤオマニアの横顔
上重 聡さん(アナウンサー)



Yaomania Vol.2 夏号 2014年6月10日発行 発行：八尾市観光協会 八尾市北本町2-1-1 ベントプラザ20号 ☎072-999-7622 編集：株式会社140B 定価0円 Printed in Japan



おいしさは
しあわせ

日本で初めて
ポーションタイプの
コーヒーフレッシュを発売!



メロディアン株式会社

〒581-0833 大阪府八尾市旭ヶ丘1丁目33
TEL. (072) 999-3250 (代表)
<http://www.melodian.co.jp>

八尾生まれのメロディアン
メロディアン 検索

ご近所でザ・古代史体感!

高安古墳群をめぐる。

「周りが池で、玉砂利敷き詰めて、立入禁止・宮内庁とか立て札あるし……」
古墳には「物々しさ」「隔絶感」がつかも……だと思っていたら、八尾は違っていた!

高安山麓に「千塚」と呼ばれる古墳群が今も点在し、柵も施錠もなく、エヅリバディ・ウルカムと無言で訪問者を迎える。この地ならではの古墳群を中島岳志さんが、しゅんじやま古墳学習館館長の福田和浩さんと歩きました。

「政治学者の中島先生が、なぜ八尾の古墳に?」。実はここ、中島岳志さんの「聖地」だったんですよ。

取材文 中島岳志 古墳解説 福田和浩 写真 楠本涼

私は小中学生の頃、熱狂的な考古学少年でした。私が育ったのは梅田近くの下町。阪急百貨店も阪神百貨店も、徒歩圏内でした。

そんな私がなぜ古代の世界にはまったのか?

きっかけは、小学校2年生の時に



下の写真を横から見た感じ。どこから通っているかという、法蔵寺の境内を通る階段の途中、右手の立て札から

つた登呂遺跡(静岡県)での体験でした。登呂は弥生時代の大きな遺跡で、復元された竪穴式住居や高床式倉庫が立ち並んでいます。私は

遺跡に併設された博物館の片隅のあるコーナーに釘付けになりました。

そこには再現した火起こし機が並べられていて、実際に手にとって火を起こしてみることができました。私は博物館員にサポートしてもらいながら、火起こしにチャレンジしました。一生懸命、手を動かしていると、棒の先端から煙が出始め、やがて木屑から赤い火の粉が出て来ました。

私は火を見た瞬間、この道具に魅了されました。炎がとても神々しいものに見えたからです。

私は売店で親にねだり、火起こし機のレプリカを買ってもらいました。もちろんこれは火がつかないように作られていて、いくら動かしても炎は上がりません。しかし、私はこの日から繰り返し火起こし機を手に取り、古代人と同じ動作を行うことにハマりました。当時は言語化できなかったのですが、私は古代人の思考や感情に接近し、彼らと一体化したいという思いを抱いたのです。変わつた子供ですよ。

そんなわけで、私は火起こし機によって古代の手触りを感じ、古代人の



古墳を出てみたら、あべのハルカスなどの高層ビル群が…夢だったのか!?

ここは中学時代に入ったんだっけ…?

都会育ちが虜になった古墳の聖地「八尾・高安」



なかじま・たけし(右)
1975年大阪市出身。北海道大学法学部、および大学院法学研究科・公共政策大学院准教授。専門は南アジア地域研究、近代政治思想史。朝日新聞紙面審議委員、毎日新聞書評委員。テレビ朝日「報道ステーション」レギュラーコメンテーター。実は熱烈な近鉄バファローズファンであったことが判明。

ふくだ・かずひろ(左)
1975年大阪生まれ。八尾市立おんじやま古墳学習館館長。大学で考古学を学び、大阪府下で遺跡の調査や学芸員として勤務しながら、文化財や歴史に親しむ活動を提供するNPO法人を設立。2005年からは指定管理者として同古墳学習館の運営に携わっている。中島先生と懐かしの「猛牛」話にも花が咲く。

開山塚古墳(郡川1号墳)

法蔵寺の境内にある6世紀後半に造られた直径30mの横穴式石室の古墳。棺を置いた玄室は15.7㎡(約10畳)あり、高安千塚古墳群で最大の広さ。明治時代に大森貝塚を発見した米国人博物学者E・S・モースが調査した古墳として知られている。市指定史跡。

近鉄信貴山口駅を降りてまだ15分も歩いていないのに、いきなり古代が口を開けて待っていた…

4

ぬけづか 抜塚 (大窪・山畑7号墳)

来迎寺境内にある6世紀末頃に造られた横穴式石室の古墳。玄室が失われ、石室入口の羨道部分のみが残ってトンネル状になっているため、抜塚と呼ばれている。石材も巨大で、本来は古墳群中で最大の石室であったとみられる。市指定史跡



横穴式古墳



昇ったり降りたりが結構堪えましたが、クルマの力を借りずに歩きました

心に想像をめぐらせるようになりまし
た。そして、次のステップとして古墳
に関心を持つようになったのです。
きっかけは明日香村の石舞台古墳に
行った時のことでした。たしか小学校
4年生の時だったと思います。巨大な
石室に入り、ひんやりとした冷気に触
れた瞬間、私は古代に突如紛れ込んだ
心地になりました。
それは時間のジェットコースター。
私は目が回りそうになる快感に包まれ
ました。
それから私は図書館に足しげく通い、
古墳について調べました。そして大阪
には古墳が思いのほか多く存在するこ
とを知りました。
歴史といえば京都と奈良。大阪は近
代都市というイメージだったのですが、
そんな先入観は崩壊し、私は一気に地
元大阪の歴史のとりこになっていった
のです。
私がハマった古墳は、大仙陵古墳(仁
徳天皇陵)のような巨大前方後円墳で
はなく、山の斜面にある小型の円墳で
した。なぜかといえば、理由はただ一
つ。自由に石室の中に入れるからです。

羨道がとても低いけど
石室は広々、快適でした



2

はっとりりがわ 服部川7号墳

6世紀後半頃に造られた直径22m
ほどの円墳で、非常に良好に残っ
ている横穴式石室の古墳。玄室の
広さが13.3㎡(約8畳)あり、古墳
群内でも大型の石室。モースが石
室の入口付近をスケッチしたのでは
ないかと考えられている。

古代につながる夢の乗り物
でした。

● それから約25年――。

私は近鉄の信貴山駅に
降り立ちました。新緑がま
ぶしく、土の香りが鼻先を
かすめました。久しぶりの
山肌は、記憶の中の風景の
ままでした。

駅を出てくねくねとした小道をたど
りながら、少しずつ山に近づいていき
ます。徐々に坂がきつくなり、額から
汗がにじみます。
法蔵寺の脇を抜け、石段を上ると、
途中の茂みの中にひっそりと開山塚古
墳があります。木々をかき分け、茂み
に踏み込むと、古代が口を開いて待っ
ています。千年以上の時間が止まった
ままで。

吸い寄せられるように、闇の中へ。
そこには古代人が見た同じ「暗さ」が
存在します。
古墳は入り口からしばらく「羨道」と
いう天井の低い道が続きます。そして、
その先に天井が高く横幅も広い「石
室」があります。この石室に「木棺」「石
棺」が置かれ、死者が埋葬されていま
した。高安千塚の円墳は小集団の有力
者の墓と考えられ、一基に複数名が埋
葬されています。
そうそう。古墳は「一基」「二基」「三
基」……と数えます。世の中には、いろ
んな単位があるものですね。
高安千塚のような小さな円墳が密集
する「群集墳」は、古墳の中では比較
的新しいものに当たります。大仙陵古
墳のような平野部に造られた巨大前方
後円墳は古墳時代中期のものが多く、
群集墳は概ね古墳時代後期に造成され
ます。かつては天皇のような巨大な力
を持った権力者のみが古墳に埋葬され
たのですが、次第に地域の有力者まで
もが古墳を作るようになり、数が一気
に増え始めます。それに伴って一基当
たりの規模は縮小し、場所も平野から
山の斜面へと移動してきます。
群集墳は尾根づたいに造られるため、
次の古墳密集地に行くには、尾根を越
えなければなりません。だから古墳歩
きは、起伏の激しい道歩く必要があ
ります。

千年以上を封印した闇の中。 西を見れば大阪のビル群が。

登ったり、下りたり。普段運動不足
の私には、とてもいい運動になります。
人ひとり通るのがやっとという小道
を通り、古い石垣に沿って歩くと、不
意に見晴らしのいい場所に出ます。眼
前に広がる大阪平野。あべのハルカス
はもちろんのこと、梅田のビル群や大
阪湾までが一望できます。古墳歩きは、
このプロセスがまた楽しいですね。

さて、服部川7号墳を出て次にたど
り着いたのは二室塚古墳。ここは石室
が二つ連なる珍しい古墳です。そして、
通称「抜塚」と言われる大窪・山畑7
号墳へ。ここがなぜ「抜塚」と言われ

右/上の抜塚を正面からくぐると来迎寺の墓地にたどり着く 左/古墳のそばに普通
の墓地がある…という光景は高安ではぜんぜん普通。ここからも眺めが抜群です

ポコっとしたドームが
高安山の頂上ですよ



3

にしつづか 二室塚古墳

(服部川25号墳)

6世紀後半頃に造られた古墳。内
部の石室を二つ繋いだ構造のため
「二室塚」と呼ばれていて、全国的
にも類例のない貴重なもの。「日本
考古学の父」といわれるガウランド
が明治時代に調査を行い、海外に
紹介した古墳としても有名である。
市指定史跡。



古墳の中に入って初めて『古事記』の意味が分かった

天井が高くゆったりした玄室。撮影でライト使用のため2人の影が映っているが普段はもちろん真っ暗



皆さんは『古事記』という神話を讀んだことがあるでしょうか。この物語には、イザナギという男神とイザナミという女神が登場します。イザナギとイザナミは日本の国土を形成する多くの子どもを産みますが、イザナミは火の神を産んだことよって大やけどを負い、命を落としてしまいます。一人残されたイザナギ。彼は死んだ妻に会いたい気持ちを抑えることができず、黄泉の国に迷い込みます。そして、決してのぞいてはいけないという妻との約束を破って、死んだ姿を見てしまいます。すると彼女は腐敗して蛆にたかられ、変わり果てた姿となっていました。イザナギは驚いて逃げだします。しかし、後ろからイザナミや八雷神、黄泉醜女らが追いかけてきます。イザナ

ギは黄泉比良坂までたどり着き、黄泉の国と地上の境界を大石で塞いで、何とか事なきをえます。この神話は、実際の古墳での体験が反映されていると考えられます。古墳の入り口は通常、閉塞石で塞がれ、次の人と同じ石室に埋葬する時に開かれます。イザナギが道をふさいだ石は、この閉塞石がモチーフになっているのでしょう。入り口から少し入ったあたりが黄泉比良坂。イザナミが腐乱していたのが石室でしょう。私は石室に入ると、いつもこの『古事記』の一節を思い出します。石室の闇は、古代から続く闇です。だから、神話の世界が一気に今の自分と地続きになります。ちょっと怖い体験ですが、古代人の精神がぐっと近くなる瞬間です。ぜひ、お試しを。

6

愛宕塚古墳

6世紀後半頃に造られた直径35mの円墳。横穴式石室の玄室の広さが21.7㎡(約13畳)あり、大阪府下で最大級、石舞台古墳に匹敵する規模。また龍の模様の大刀や金銅張りの馬具なども出土し、相当な有力者の墓と考えられる。府指定史跡。



5

俊徳丸鏡塚古墳 (大窪・山畑27号墳)

6世紀後半頃に造られた直径15mほどの古墳。玄室の広さが8.8㎡(約5畳)あり、中規模の横穴式石室。浄瑠璃や歌舞伎で有名な俊徳丸の墓という伝説から、実川延若など有名な歌舞伎役者が寄進した手水鉢などの石造物が残されている。

ウェルカムな古墳群とフレンドリーなひとびと。

この羨道は、人が立ったまま通れるほどの高さがあります。この規模から推定すると、石室は相当大きかったことが予想されます。八尾市立しおんじやま古墳学習館館長の福田さんは「もしかすると、高安千塚の中で最も大きな石室だったかもしれませんね」と教えてくれました。さすが古墳博士。「拔塚」を抜けると、来迎寺というお寺があります。浄土宗のお寺で江戸初期に創建されたと言われています。この境内にある無料休憩所で一服。お弁当を広げて食べていると、女性の管理人さんから飲み物をサービスしてもらいました。八尾の皆さんは、本当にフレンドリー

から、この古墳の埋葬者が「俊徳丸」とは考えにくいのですが、伝説が有名になったことで古墳と結び付けられ、江戸時代には名所のひとつになったそうです。江戸時代には名所のひとつになったから、この古墳の埋葬者が「俊徳丸」とは考えにくいのですが、伝説が有名になったことで古墳と結び付けられ、江戸時代には名所のひとつになったそうです。



上/俊徳丸鏡塚古墳は住宅地に。「ここまっすぐ」服部川地区の役員の方に感謝 下右/無事に到着 下左/角には随所にカーブミラー

で優しい人ばかりでした。道に迷うと丁寧に教えてくれるおじさん。すれ違う人は、笑顔で挨拶してくれます。さて、少し下って住宅地に出ていくと、民家に隣接



上/俊徳丸鏡塚古墳からさらに北へ歩くとまた風景が一変。傾斜もなだらかで空が広い 中/愛宕塚古墳に到着 下右/近くのため池はジャングルの様相 下左/標石が点在

地域を代表する前方後円墳に上から目線の怖いキャラが…。



7 心合寺山古墳

5世紀前半頃に造られた全長160mの前方後円墳。中・北河内最大の古墳で、この地域を支配した豪族の墓と考えられる。埴輪や葺石、墳丘などが1600年前の姿に復元され、築造当時の様子を見学することができる。国指定史跡。

最後に心合寺山古墳へ。
ここは高安千塚とは違って、平野部に造られた前方後円墳です。つまり、これまで訪ねた群集墳よりも時代が古い。墳丘部分が全長約160mもあるこの一帯を代表する巨大古墳です。



左上/心合寺山古墳を東側から眺める。夏は緑のカーペット 左下/池を隔てて墳丘と桐の花。4月下旬ならではの光景 右/西側からの眺め。夏は階段が大変。「墳丘」に登るのはここが初体験の人も多

りません。心合寺山古墳の横にある八尾市立しおんじやま古墳学習館。ここではタイミングが合えば「ハニワこうてい」という全然ゆるくないキャラが案内・説明してくれます。このキャラ、ふなっしーのようにしゃべるんです。でもその声、どこかで聞いたことのあるような…。

とにかく八尾の古墳は「フレンドリーでエブリバディ・ウェルカム」です。こんな身近なところで、とっても気軽に古代を感じることができるなんて、驚きじゃないですか？

日常の疲れを街に置いて、ちょっとした時間の旅に出てみましょう。高安千塚は、古代への入り口を開けて待っています。



ハニワこうていのエラそうな説明に耳を傾ける中島先生。八尾市立しおんじやま古墳学習館 ☎072-941-3114

福田館長は？

知らん！

八尾、高安の古墳群や心合寺山古墳の成り立ちについて。

古墳博士と称される福田館長をアゴでこき使う心合寺山古墳の主、ハニワこうていが地域の古墳の歴史を語るちょっとエラそうなキャラムです。



ハニワこうてい
ハニワ帝国の皇帝。古墳を造った人間に代わり、埴輪や古墳の魅力を伝えることで世界征服をめざしている。「心合寺山古墳」が本拠地。上から目線だが、自ら芸員並みの解説をして古墳の見学者に魅力を伝え、地道に国民を増やしている。

八尾市内には発掘調査の結果、市街地でも地中に眠っている古墳がたくさん見つかったおるのだが、今回紹介した東部の高安山麓には、地上でもたくさん古墳が残っていて、自由に見学することができる。

まず山麓北側には、心合寺山古墳を中心とした「楽音寺・大竹古墳群」がある。古墳の総数は6基だ。そして、山麓南側の信貴山口駅周辺には「高安千塚古墳群」があり、昔は500基以上あったようだが、現在は確認できるだけで224基。千塚だが、1000基はないようだ。まうそれだけ数が多いってことだな。とにかく数を比べると、高安千塚の方がすごい？と思うかもしれないが、そう単純でもない。

期々中期、おおよそ4〜5世紀にこの地域を支配していた豪族たちの墓で、古墳の大きさは直径30〜160mほど。前方後円墳など、比較的大きな古墳が集まったものだ。

とされているが、その90%以上は、この古墳時代後期の小さい古墳。同じ「古墳」「古墳群」という名前でも、内容は全然違うのだ。

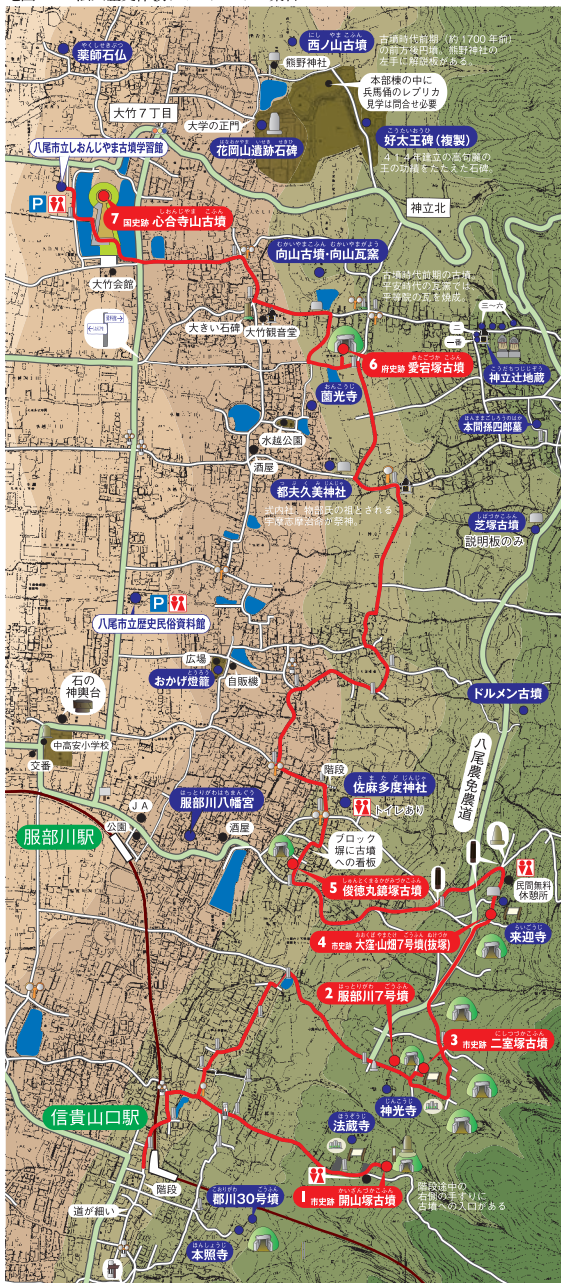
そして7世紀、飛鳥時代になると、他の地域では古墳を引き続き造るところも多かったのに、高安千塚では古墳を造るのを止めてしまおう。それはなぜなのか？ 八尾を本拠地にした物部氏の盛衰にも関係があるとも言われたりしたが、真相は分からない。

とにかく八尾は、すぐ近くに仁徳陵古墳をはじめとする巨大前方後円墳が数多く控え、大和川を遡ればすぐに大和・飛鳥へたどり着ける重要な地域。古墳の大きさと時期は違っても、それらは当時の大王たちを近くで支えた人たちのものと考えられるのだ。

今回訪れた高安の7古墳

名称	形状	築造	特徴・規模
1 開山塚古墳	円墳	6世紀後半	玄室15.7㎡
2 服部川7号墳	円墳	6世紀後半	玄室13.3㎡
3 二室塚古墳	円墳	6世紀後半	石室を2つ繋ぐ
4 抜塚	円墳	6世紀末	羨道のみ残りトンネル状
5 俊徳丸鏡塚古墳	円墳	6世紀後半	玄室8.8㎡
6 愛宕塚古墳	円墳	6世紀後半	玄室21.7㎡(府下最大級)
7 心合寺山古墳	前方後円墳	5世紀前半	全長160m

地図=NPO法人歴史体験サポートセンター楽古



※ハイキングマナーを守って、文化財を大切に扱います。

八尾を代表するあの作家が 帰ってきました。

作家・今東光を語る八尾人の意見には賛否両論があるが、「否」の方の人も、必ず著作を持っていることが多い。司馬遼太郎を語るときの東大市民(悪口は聞かない)以上に、「作家と地元」の距離の近さを感じる。けれど今東光が八尾を去ってから40年が経とうとし、書店にも著書がほとんどなく、「イマヒガシヒカルさんて誰」という若者も……。「地元が生んだこんな面白い小説家、もったいない!」八尾人たちの奮闘が実り、大阪でもユニークな「場」が出来ました。

取材・文=中島 淳(本誌) 写真=藤岡みきこ

エントランスから見えます。左手には年表、右手には珠玉の言葉集。西淀川区の男性客は「産経新聞に載ったのを見て来ました」

「昭和の八尾が知りたい人にもぜひ、訪れてほしい。」

資料館はエントランスから始まる。東光の年表や絢爛豪華な装丁の著書、そして生原稿のボリュームに圧倒される。師匠と慕った谷崎潤一郎、東光が連載を頼んだことで作家として世に出た司馬遼太郎など交友関係の華やかさが映像と共に紹介される。視覚的圧巻は一番奥、『悪名』をはじめ映画化作品のポスターやシナリオの企画展示だ。今東光は「八尾はガラが悪い街だ」というイメージをつくった」と言われることも多いが、それは小説というより映像の力だろう。『悪名』は単行本が生まれる前に勝新太郎主演で映画化され、爆発的にヒットしてしまったことで八尾のイメージが一人歩きしてしまった部分は多々ある。それでも三池崇史監督のように「映画好きで八尾を知

らない人はいなかった(前号より)と、「悪名シリーズ」のおかげで八尾が有名になったことを誇りに思っている人も少なからずいるから面白い。八尾在住の熱心な今東光ファンの一人は、資料館を見て「ええ雰囲気やね。あとは今東光なんて知らなくて、という若い人が入りやすい入り口をどれだけ作ることができるか、だと思ふ」と。そしてこの資料館開設に多くのアドバイスをした大阪大学総合芸術博物館館長の橋爪節也氏は「大阪は一級品の文学の地やのになぜか公立文学館が少なかった。だからスタッフは全国各地に行つてこの資料館を広めたり新しいことを吸収したりしてほしいね。これから始まるんやという気持ちで」と語る。下の図書館で借りられる作品も多いけれど、いずれは文豪の記念館のように著書もここで販売できれば、もっとファンが増えていくはずだろう。



上/『東光太平記』の生原稿、右手の山一つが単行本1巻分。仕事量そのまんま「厚み」に中/今東光自身が凄腕の持ち主だったので、装丁を担当する画家たちは気が入った。本1冊に込められたエネルギーは今と全然違う。下/今東光の作品もタブレット端末で一部ながら読めます。『稚児』は谷崎が序文を書いていて、これもお勧め



センターの「主役」東光を挟んで主査の岡本俊樹さん(左)は『悪名』が、資料係の堀寿恵さんは『清貧の賦』がお気に入り。左端は図書館館長の南昌則さん、右端は館長補佐の西村隆男さん

今東光資料館

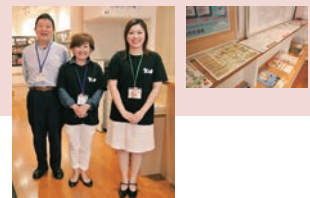
八尾市本町2-2-8 八尾市立八尾図書館3F
☎072-943-3810
10:00 ~ 17:00 月曜・年末年始休

「どっかええとこある?」の期待に観光案内所はしっかりお応えします。

「八尾って観光できるの? 何が有名なん?」…近鉄八尾駅の真下に4月にオープンした八尾市観光協会の案内所には連日、50人を超える来場者からいろんな問い合わせが来る。「今東光資料館が新聞に載ってからは「場所どこ、という方が増えました。こういう拠点が出来る、情報が欲しくて来られる人と直接お話しできるのがうれしいこと」と八尾市観光協

会事務局局長の木村裕美さん。奥の展示室は貸しギャラリーとして1週間単位で市民に無料で開放している(予約制)、スタッフの愛想よしキャラとの相乗効果です。スタッフが集まる場所になる予感。電話での問い合わせよりも「来場される方が多いです」というのも、さもありなん。●八尾市北本町2-1 ベントプラザ20号 ☎072-997-6226 10:00 ~ 18:00 12.29 ~ 1.3休

「パワフルで機嫌よし」の八尾を象徴するかなのような木村事務局局長を挟んで、局長補佐の幅下忍さん(左)と中谷美和子さん 右/「やっぱり地図がほしいとおっしゃる方が多いです」。いろいろあります



左/映画化された作品は50本を超えるが、ポスターがケレン味たっぷりなのも時代ですね。下/今東光をめぐる華やかなネットワーク。山田耕筰、鴨居半子、森繁久彌の姿も



「お住つさん、いつ原稿書くの!」風雲児のちスパー住職。今東光(本名です)は明治31年(1898)に日本郵船の船長であった父・武平と母・綾の長男として横浜に生まれる。「ええしのボン」ではあったが、頭がよく早熟で女性にモテた彼には周囲から「素行が悪い」とレッテルを貼られ、関西学院や豊岡中学などで中退を繰り返した。大学には行かなかったが、転々としたいろんな街の先輩方から「世間」を学んだのだろう(まるで『悪名』の朝吉親分だ)。独学ではあるが帝大生も驚く博識だったという。やがて菊池寛、川端康成らと共に新しい文学活動に取り組み、今日まで続く雑誌『文藝春秋』の創刊号にも寄稿している。その後、菊池寛とは袂を分

ち、文壇からも距離を置くようになったが、昭和5年(1930)の得度出家以降も昭和52年(1977)に他界するまでずっと執筆を続けた。昭和26年(1951)、八尾市中野村(現・西山本町)にある天台院の特命住職を拝命したことで、今東光の運命が大きく変転する。「八尾」という土地が育んだ歴史の厚みと自然の豊かさ、人間の面白さは作家の脳内で爆発的な化学反応を起こしたよう、朝から晩まで檀家がひっきりなしに訪れるお勤めの合間を縫って執筆に励んだ。直木賞受賞作の『お吟さま』、勝新太郎・田宮二郎の映画も大ヒットした『悪名』をはじめ、「みみずく説法」「鬨鶏」「山椒魚」「テント劇場」「こつまなんきん」「弓削道鏡」「河内風土記」などの名作を連発していったのだ。



左/博学さは翻訳にも表れた。昭和15年(1940)にはリードピーターの『神秘的人間像』を訳。右/八尾に来て間もない昭和28年(1953)には個人雑誌『東光』を編集発行していた。元祖Yaomania!



名作を真空保存しているような「本の樹」が3本。棟方志功、向井潤吉、芹沢銈介などの装丁をモチーフにデザイン

季節のピンポイントレッスン
濃厚なうまみと
甘みは絶品!
八尾の至宝です。



枝豆の掘り取り

●6月21日(土)・22日(日)
@畑中真美農園(恩智中町)



一家総出で参加。「掘り取りに来るまで、八尾が枝豆の産地とは知らなかった(笑)」という若いお母さんも。八尾に住んでラッキーでしょ。農園の畑中さん「さやの大きさが違います」。御意



たわわに実る枝豆のさやには、ぷりぷりの粒が詰まっている…おいしそう ※八尾市観光協会サポート会員になっていた方の方に、抽選で10名様に掘り取りご招待。詳しくは八尾市観光協会に☎072-997-6226

「塩」 茹でにするだけなのに、すごくおいしい。食べだしたら止まりません(笑)と掘り取りにやってきた女性はほくほく顔。掘りたての枝豆にしかない贅沢な味わいだ。枝豆は緑色の硬いさやに覆われているため日持ちしそうに見えるが、収穫後2日経つと

アミノ酸と糖分が半減するという、まったくの新鮮品。八尾市は近畿内トップの収穫量を誇る枝豆の一大産地なのだ。が、収穫してすぐの枝豆のおいしさについて意外と市民には知られていない。「身近な枝豆のことをもっと知って」と3代目兼業農家の畑中真美さんは、市政だより等で呼びかけ、枝豆の掘り取りイベントを実施している。

近鉄恩智駅から東へ徒歩10分。畑中真美農園には約2500本の枝豆が植えられていて、掘り取りの2日間で300人以上が入り替わり畑にやってきては、枝豆を引き抜き、急ぎ足で帰っていく。年々、掘り取りのリピーターが増え、このごろでは応募多数につき抽選となるほどの人気ぶり。未経験の方、一度チャレンジしてみてください。

八尾産の枝豆はJA直売所「畑のつづき/山本町南7-13-22」や市内の青果店、7月26日(土)の八尾バルでも味わうことができます(詳細はP15)。

取材文:きむあつこ 写真:内池秀人



「全然変わっていないですね」と懐かしそうに語る、上重聡さん。八尾市立青少年運動広場(安中グラウンド)は、高いフェンスと夜間照明の整った、人気施設だ。左はコーチの北出守さん

ヤオマニアの横顔 日本テレビアナウンサー 上重 聡さん

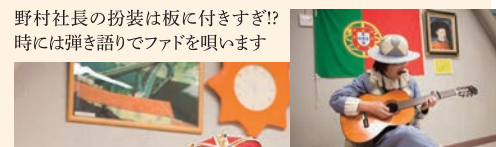
「八尾らしい、ストレートな表現とやさしさが 負けず嫌いの人間を育てるんですね」

小 2から地元の硬式野球チーム。八尾フレンドに入り、野球漬けの毎日を送っていました。小学校の運動会で足の速い人はたいこのチームに所属していたので、かっこいいなあと思ったのが野球を始めたきっかけです。八尾で生まれていなかったら、野球とも縁がなかったかもしれないし、今の仕事に就いていなかったでしょうね。

中学時代、練習前には幼なじみで何

かと気の合う乾くんの家に必ず寄り、そのおばちゃんがつくるフレンチトーストとカフェオレをいたたいていました。甲子園で、記者に取材を受けたとき、「まさに現代っ子。スタミナの源はフレンチトーストとカフェオレ、時代も変わった」みたいな記事が載ったこともありました。周りの人が身内みたいに気にかけてくれるという八尾の近さは、東京にはない距離感だと思えますよ、いまでも。

駅チカ観光名所 金平糖づくりを体験できる 大人も感動の夢空間。 コンペイトウ ミュージアム(地下鉄八尾南駅)



館 内の随所に登場する摩訶不思議な人物。あるときはコンペイトウ王国の王様、またあるときは白衣のコンペイトウ博士。南蛮文化の伝道師として、ギターをつま弾きながらコンペイトウの歌まで歌ってくれる。C調のくだけた歌かと期待していると、フアド(ポルトガル民謡)の哀愁を帯びた旋律に、笑顔の職人さんは冬でも夏地獄、なんていうリアルな歌詞まで飛び出したりして…野村卓社長自らの扮装・演技は役者顔負けの面白さだ。

「中途半端はあかん。楽しんでいただくためには120%の熱意で」とその奮闘ぶりに、感動のお便りが届くこともしばしば。

「子ども連れのお父さんからも、嬉しい手紙が来ましたよ」

体験工房では5種の色素と10種の香料を組み合わせ、マイ金平糖をつくる。これはオレンジ色×パイン味。出来たては熱々で軟らかい。来場者は年間3万人を超える

取材文:きむあつこ 写真:藤岡みきこ

金平糖は砂糖を型押ししてつくるのではなく、グラニュー糖に蜜をかけてゆつくりと結晶化させていく。1日、たった1mmしか成長しない。熱した鉄釜で転がしながら2週間かけて約24個の角を形成させていく不思議なお菓子だ。デジタル化された現代に遺された、大航海時代の産物ともいえる金平糖。子どもの成長も金平糖のようなもの、というのが野村社長のもうひとつの思い。だからこそ、温かみたっぷりの、手づくり感溢れるアナログな仕掛けが、心の琴線に触れるんだろうな、きつと。

取材文:きむあつこ 写真:藤岡みきこ

コンペイトウミュージアム
八尾市若林町2-88
☎072-948-1339
体験工房は要予約(10人以上)

小・中学校とも全国大会で優勝しましたが、唯一のコンプレックスがずっと2番手のピッチャーだったこと。僕は負けず嫌いなので、高校では絶対にエースになりたかった。どうせやるなら最高峰のところでチャレンジしようとして強豪・PL学園に進学し、15歳で八尾を離れて富田林での寮生活が始まりました。外出許可が半年に1度しかないで、卒業アルバムに載っていた同級生の住所に片っ端から手紙を書いては、返事が届くのを楽しみにしていました。八尾とつながる手段が文通しかなく、こんなアナログなやりとりが心の支えでしたね。

河内の言葉には力がある

僕は人前でしゃべるのが苦手で恥ずかしがり屋でしたが、甲子園でインタビューを受けたことがきっかけで、アナウンサーに興味を持つようになりました。でも大学時代、4年も東京にいたのに、全然標準語に染まらなかった。関西人って、どこに行っても関西弁を直す気がないでしょ。僕なんか、試合中「打つたらんかい」「いったれ」とか河内の威勢のいい掛け声でチームを盛り上げていましたからね。関西弁を聞

くとアクセントが耳に残るので、アナウンサーが決まればしばらくは、八尾と連絡を絶ち、標準語に集中していました。テレビではスマートに標準語をしゃべっていますが、中身は負けず嫌いな河内の男です(笑)。

河内の言葉って、きつと聞こえますが、勝負の場面においてはこれ以上の言葉はないと思います。ノリがいいというか、言葉に力がありますね。僕自身、そんな

で「ズームイン!」。
八尾フレンド集合の図。

応援をたくさんもらったので、今度はお返しする番。八尾生まれを誇りに、八尾を盛り上げていければいいなと思います。実はあの本『Who's Who: 八尾の入り口』の「あなたにとって八尾のヒーローは?」アンケートに、自分の名前がなかったのがちょっとショックで、次は15位までに名前を連ねたい。…オレって、ほんま負けず嫌いやわ(笑)。

取材文:きむあつこ 写真:内池秀人



おかげでこんなに大きくなりました、と挨拶しているのかな? 上重さんの趣味は料理。「八尾のご当地グルメとか提案できればいいですね」

かみしげ・さとし
日本テレビアナウンサー。1980年八尾市生まれ。永知小学校、龍華中学校を経て、PL学園高校に。第80回甲子園大会で松坂大輔投手と延長17回まで投げ合ったことで有名。立教大学時代は東京六大学野球で史上2人目の完全試合を達成。2003年日本テレビ入社。2010年4月から『ズームイン!!サタデー』の5代目総司会を務める。愛称は「エース上重」。ニュース、スポーツ、バラエティ番組で活躍中。

ヤオマニアの心ふるわす夏～初秋カレンダー

※会場はMAPでお確かめください。イベント予定は、変更になる場合があります。詳しくは八尾市観光協会まで ☎072-997-6226

6月中旬頃まで アジサイ

●長瀬川沿い(安中町9丁目)
→沿道約300メートルを色彩豊かに染めるアジサイ。雨の日のお散歩に

6.21(土)・22(日) 八尾えだまめの掘り取り

●畑中真美農園(恩智中町) 9:00～12:00
→P12を参照

7.12(土)～31(木) 八尾商業まつり

●八尾市内の小売市場や商店街、専門店など
→期間中、ポスターやのぼりがついた参加店で買い物をするとうきょう券などが当たるスクラッチカードを進呈。12(土)、13(日)、19(土)のオープニングイベントにはイメージキャラクターの「やおっちゃん」が登場する。参加店は開催直前に配布する新聞チラシにも掲載 ☎072-922-1181(八尾商工会議所)

7.26(土) 八尾バル

●近鉄八尾駅・河内山本駅周辺 12:00～
→八尾産の旬食材をほごで味わう名物イベント。「八尾えだまめ」+αをテーマに近鉄八尾、河内山本駅周辺の30店舗が参加。詳細は八尾バルHPで

7.27(日) 八尾河内音頭まつりプレイベント

●アリオ八尾1階レッドコート 13:00～15:00
→いよいよ河内音頭の季節が到来。こども音頭取りをはじめ、河内音頭の歌い手たちが登場する

8.15(金)・16(土) 万灯会

●大聖勝軍寺

8.24(日) 河内音頭やおフェスタ

●プリズムホール

9.7(日) 八尾河内音頭まつり

●久宝寺緑地

9.20(土)・21(日) 河内木綿まつり

●八尾市立歴史民俗資料館 9:00～16:30(入館)
☎072-941-3601(八尾市立歴史民俗資料館)

●高安能

「花岡山 伊勢物語フェスティバル2014」連続講座 伊勢物語と高安

大阪経済法科大学八尾駅前キャンパス 10:00～
能曲「高安」の今秋の復曲の前に原典「伊勢物語」から作品の舞台や背景を探る

第1回 6.28(土) 伊勢物語にみる女性像

→大阪経済法科大学教養部長 浅見緑氏

第2回 7.26(土) 業平と高安の女

→八尾市立歴史民俗資料館元館長 棚橋利光氏

第3回 8.30(土) 伊勢物語から能楽曲へ

→観世流能楽師 山中雅志氏
名前、住所、電話番号を明記してFAX.072-999-7491(高安能未来継承事業推進協議会事務局)

●安中新田会所跡旧植田家住宅

7.4(金)～8.31(日)
WAO! 和本～植田家の書籍～ 9:00～17:00
→植田家所蔵、和綴じ本コレクションを一挙公開

7.12(土) 講座「今東光と八尾」 14:00～15:30
→講師 今東光を語る会 伊東健氏

●八尾市立しおんじやま古墳学習館 しおんじやま学び場(講座)

7.5(土) 仏教考古学入門2 14:00～15:00
→講師 阪南大学国際観光学部 和泉大樹氏

8.2(土) 河内の古墳を知ろう

～柏原市・高井田山古墳 14:00～15:00
→講師 柏原市立歴史資料館館長 安村俊史氏

9.6(土) 大坂冬の陣を掘る 14:00～15:00
→(公財)大阪府文化財センター 江浦洋氏

しおんじやま遊び場(体験講座)

7.20(日) 古代人の服を作ろう 13:00～15:00
→参加費320円 申込不要 先着20名

8.9(土)～8.31(日) しおんじやま夏の体験まつり
→ハニワ貯金箱を作ろう! など、期間限定の体験プログラムが目白押し

※夏祭りについての詳しいスケジュールは、7.4(金)発行予定のYaomania増刊「夏祭と河内音頭」でご紹介します。

ヤオマニア観光地図



表紙「しおんじやま古墳」

八尾市の中心部を離れ、北東に進んで行くと高安連山の綺麗な山並みが近づき、のどかな風景へと変わって行きます。高安の地域にはいくつもの古墳があり、そのひとつ、心合寺山古墳に行ってきた。復元された古墳には円筒の埴輪が並び、長い時間の中で育った大きな桐の木が今は一緒に古墳を守っています。小高くなっている古墳から大阪平野に広がる八尾の街が見え、気持ちの良い風が辺りを通り抜けて行きました。

すがいひでかず 1977年明石市出身。日本の原風景とも言える、色彩豊かで緻密かつ温かいタッチの作品で多くのファンを持つ。著書に『私だけのふるさと』(岩波書店)ほか。6.20(金)には南洋で生まれた鰻が日本の川を上り、再び海に戻る大回遊物語『うなぎのうーちゃん だいぼうけん』(文・くろきまり/福音館書店)が発売される。

発行=八尾市観光協会 編集=株式会社140B
表紙絵=須飼秀和 デザイン=山崎慎太郎
印刷=図書印刷株式会社
※記事の情報は2014年5月20日時点のものです。

パン屋は街の入り口だ。 安中町 ぱんのいえ 八尾店

一日限定500個(1R八尾店だけで)が夕方には売り切れる。ほとんどのお客さんが「塩パンある?」と尋ね、「焼きあがるまで待つ」と言わせるほどだ。クロワッサンのような三日月形だが、生地はセミフランス。表面の自然塩がピリリとして、噛みしめるたびに、フレッシュバター風味が口の中に広がる。塩味が目覚めたというか、これ、ハマるわ。



蛸島店長と、笑顔がええ感じの長尾さん(全店の販売リーダー)が店を盛り立てる。長尾さんの手には「河内食パン」226円。粉の配合を研究し、徹底的にもっちり追求し、食べ応え十分

志紀駅前創業。JR八尾店は平成元年(1989)にオープンし、駅前パン屋さんとしてすっかりおなじみとなった。「天王寺で1000円なら、うちが90円で勝負する。八尾にもターミナルに負けないパンがあることを知らしめたい」(美貴子さん)と強気だ。そんなオーナーを支える一人、八尾

店には名物店員の長尾恵美子さん、ちょっと強面ではあるが(笑)、陣頭指揮する。チームワークのよさがもたらすのか、パンも人もパワフルで、店から伝わるエネルギーの、スゴいなんの。まさに「JR八尾駅前の入り口」にふさわしい店です。



ぱんのいえ 八尾店

●八尾市安中町4-2-16
☎072-924-8008 6:00～20:00
第3次曜日

60種の定番と約40種のオリジナル(季節商品など)が所狭しと並び。塩パンは最上席に。山積み状態は焼き立ての瞬間のみ!



「田舎フランス」165円。低温でじっくり焼き上げた軟らかいフランスパン。表面のバター風味がおいしい感じ



「カレーパン」144円。香辛料の利いた自家製カレーもっちりした生地、カリカリの衣が堪らない



「塩パン」77円。フランス産海塩がランドが味のアクセントに。しかもこの安さはいじょう 1人5個まで



「たまごパン」108円。卵を練り込んだブリオッシュ系の口どけのいい生地と砂糖のジャリ感がクセに